

入札状況の常時監視報告書 (令和5年度)

(概要版)

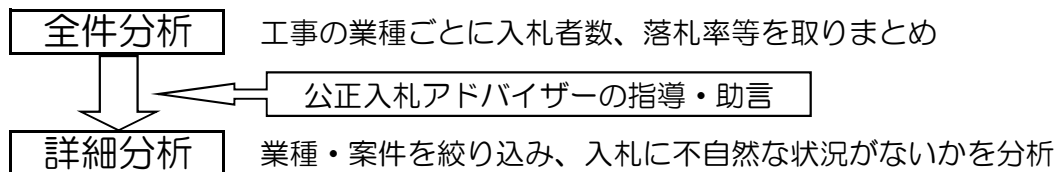
名古屋市

1 入札状況の常時監視の概要 (2～5ページ)

(1) 目的

- ・ 談合等不正行為の早期発見と抑止
- ・ 監視結果の公表による本市の入札、契約手続の透明性・公正性の向上

(2) 内容



(3) 結果

昨年度と比較し、平均入札者数は0.5者増、平均落札率は0.1ポイント減と大きな増減は見られなかった。

また、個別案件を抽出し、入札時に事業者が提出した総合評価落札方式における自己評価加算点申告表の内容について詳細分析を行ったが、抽出した40件のうち6件に配置出来ない可能性がある技術者の記載があった。配置出来ない技術者を記入する理由として、事業者の確認不足や限られた技術者を同時期の落札案件で既に従事させていること等が考えられるが、当該事業者が落札候補者とはならなかったことから問題ではないと判断した。

2 入札状況の概要 (6～16ページ)

(1) 発注件数・落札金額

発注件数2,416件（29業種）のうち1,869件（77%）が一般競争入札

(2) 平均入札者数・平均落札率

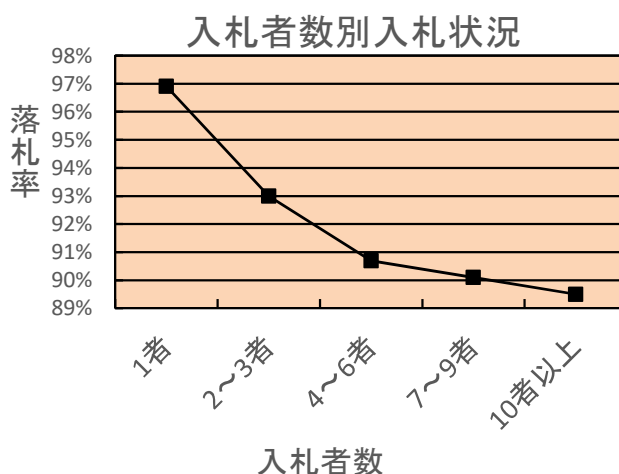
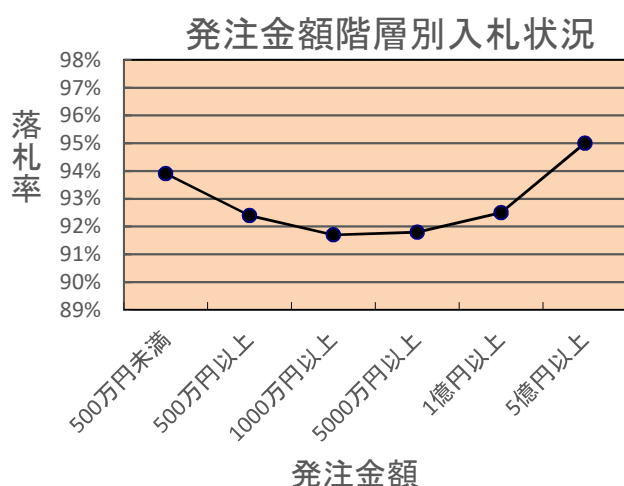
①平均入札者数

- ・ 令和4年度と同様、一般競争入札の方が指名競争入札に比べて多い傾向がみられた。

区 分	平均入札者数	前年比	平均落札率	前年比
一般競争入札	8.8者	+0.6	91.7%	△0.1
指名競争入札	4.3者	+0.3	92.5%	+0.1
入札合計	7.7者	+0.5	91.9%	△0.1

②平均落札率

- 入札全体では、令和4年度と比べて0.1ポイント低くなった。
- 令和4年度と同様、一般競争入札の方が指名競争入札に比べて低くなった。
- 発注金額階層別では、500万円未満や5億円以上の工事においてやや高い傾向が見られ、高額かつ大規模な工事は施工可能な事業者が限られることや、少額の工事は事業者が敬遠することにより入札者が少なくなるため、競争性が下がり落札率が高くなっていると考えられる。
- 令和4年度と同様、入札者数が多いほど低い傾向が見られた。



(3) 入札不調

- 令和5年度は、第2四半期から第3四半期にかけて入札不調が増加したが、全体の入札不調発生率は6.6%であり、令和4年度より減少した。
- これは、入札参加資格の緩和、最新の単価による積算、発注時期の平準化など入札不調防止策を講じたことによるものと考えられる。